

古今和歌集「物名」

平安時代には、歌を使って知恵比べのような遊びをしたこともあったようです。

問1

次の「例」の歌を見てください。歌の中に「ほととぎす」がよみこまれています。

※ 来べきほど時過ぎぬれや 待ちわびて 鳴くなる声の 人をとよむる

←「ほととぎす」がかくれています。

では、皆さんにも、何かの名前をうめこんだ歌を紹介いたします。どの歌にどの言葉が隠されているか、下に並べた言葉から正しく選んで線で結んでください。

① 波の打つ瀬見れば玉ぞ乱れける 拾はば袖にはかなからむや	<input type="checkbox"/>	すももの花
② いま幾日春しなければ鶯もものはながめて おもふべらなり	<input type="checkbox"/>	からもの花
③ 逢ふからもものはなほこそ悲しけれ 別れむことをかねて思へば	<input type="checkbox"/>	うつせみ
④ かくばかり逢ふ日のまれになる人を いかがつらしと思はざるべき	<input type="checkbox"/>	をがたまの木
⑤ あしひきの山たち離れ行く雲の宿りさだめぬ世にこそありけれ	<input type="checkbox"/>	たちばな
⑥ みよしの吉野の滝に浮かび出づる泡をか玉の消ゆと見つらむ	<input type="checkbox"/>	あふひかつら
⑦ 人目ゆゑ後に逢ふ日ははるけくはわがつらきにや思ひなされむ	<input type="checkbox"/>	をみなへし
⑧ 秋は来ぬ今や籬のきりぎりす 夜な夜な鳴かむ風の寒さに	<input type="checkbox"/>	あふひかつら
⑨ 白露を玉にぬくとや ささがにの 花にも葉にも糸をみなへし	<input type="checkbox"/>	やまがきの木
⑩ わがやどの花踏みしだく鳥打たむ野はなければやここにしも来る	<input type="checkbox"/>	ささまつ びはばせをば
⑪ あぢきなし歎きなつめそ憂きことにあひくる身をば捨てぬものから	<input type="checkbox"/>	りうたむの花
⑫ いささめに時まつまにぞ日はへぬる心ばせをば人に見えつつ	<input type="checkbox"/>	なしなつめくるみ

問2

次の歌を読んで、後の問いに答えましょう。

※ 花の中目に飽くやとて 分け行けば 心ぞともに散りぬべらなる

この歌も古今和歌集から抜き出したものです。この歌は、ある人から出された難しい条件に従って作られたものです。それは平安時代の言葉で、『は』をははじめ、『る』をはてにて、『ながめ』をかけて時の歌よめ」というものでした。

では、この人が出した条件とは、具体的にどうすることなのでしょう。やさしい言葉で答えましょう。

正解はこちら

問1

- ① 波の打つ瀬見れば玉ぞ乱れける 拾はば袖にはかなからむや
- ② いま幾日春しなければ鶯もものはながめて おもふべらなり
- ③ 逢ふからもものはなほこそ悲しけれ 別れむことをかねて思へば
- ④ かくばかり逢ふ日のまれになる人を いかがつらしと思はざるべき
- ⑤ あしひきの山たち離れ行く雲の宿りさだめぬ世にこそありけれ
- ⑥ みよしの吉野の滝に浮かび出づる泡をか玉の消ゆと見つらむ
- ⑦ 人目ゆゑ後に逢ふ日ははるけくはわがつらきにや思ひなされむ
- ⑧ 秋は来ぬ今や籬のきりぎりす 夜な夜な鳴かむ風の寒さに
- ⑨ 白露を玉にぬくとや ささがにの 花にも葉にも糸をみなへし
- ⑩ わがやどの花踏みしだく鳥打たむ野はなければやここにしも来る
- ⑪ あぢきなし歎きなつめそ憂きことにあひくる身をば捨てぬものから
- ⑫ いささめに時まつまにぞ日はへぬる心ばせをば人に見えつつ

- うつせみ(空蟬)
 - すももの花(李)
 - からもの花(杏)
 - あふひ かつら(葵・桂)
 - たちばな(橘)
 - をがたまの木(招霊木)
 - あふひ かつら(葵・桂)
 - やまがきの木
 - をみなへし(おみなえし)
 - りうたむの花(竜胆)
 - なしなつめくるみ(梨 棗 胡桃)
 - ささまつ びはばせをば
- (笹 松 枇杷 芭蕉葉)

問2

条件……「は」で始まり、「る」で終わって、「ながめ」を掛詞にして、この時期の歌を歌え

花の中目に飽くやとて 分け行けば 心ぞともに 散りぬべらなる